

夢想桜 — 西行に寄す —

露崎紋子

薄紅の 桜の匂い

鼻腔をくすぐり

胸へ 指先へ

深く広がる

黄金色の 月あかり

額をなでて

口へ 腹へ

静かに沈む

願いがかなうのならば

桜の木の下で

死にたい

息を吸うたび

息を吐くたび

この身は空になる

いつの間にか

桜花の香となって

光に消える

釈迦が入滅した

如月の満月のころ

わたしは

宇宙になる